

Column.2

愛は空より広く、海より深い！

よく「免疫染色がうまくなるコツは？」なんて質問を受ける。その場合は、「目的の抗原と使用する抗体の性質を把握すること」「条件設定が柔軟にできるようになること」「原理を知り、ポイントはしっかり押さえておくこと」など、あたかももっともらしい答え方をするが……。ここで本音を言いたい。

免疫染色がうまくなるコツは“愛情”と“イメージトレーニング”だ！“3度の飯より免疫染色が好き”が私を表すのに最もふさわしい表現だ。免疫染色をすることが楽しくてたまらない。抗体の知識が増えることがうれしくてたまらない。経験が増えていくことに興奮する。そんな毎日だった。

夜寝る前にベッドの中で「明日は、あの抗体を使って染色するよな。染色の方法は、ポリマー法とLSAB法だから、同時にやると……」と、翌日の染色スケジュールについて妄想し、朝目が覚めると「発色したときの染色性は、こんな感じに染まるな。あの細胞の核に染まるな……」とイメージしていた。朝がきて、出勤するのがうれしくて、休日などは免疫染色がしたくて落ち着かなくて、休日出勤して染色したりもした。

発色をする際、自分の中でアドレナリンが分泌されているのがわかるくらい、興奮してたまらなかった。どうすれば正確な染色ができるのか、美しい標本作製するには何に気をつければよいのか？をとことん追求したくなった。もっと高い技術の免疫染色をしたい、難しい染色をしたいと、免疫多重染色にも没頭した。

気づいたら、免疫染色ではそこそこ名が知られるようになっていた。私は、ただ大好きなことを、好きなだけやっていただけだった。“好きこそものの上手なれ”とは、よく言ったものだと思う。それを私は実際に体感している。好きな人のことはなんでも知りたくなる。好きなことはマスターしてみたくなる。私にとって、その対象が免疫染色だっただけだ。

免疫染色の経験や知識に長けた人は、この世の中に山ほど存在する。だけど、これだけは自信をもって言える。免疫染色に対する愛情で私の右に出る人は、世界広しといえどいない。愛情をもつことは知識と技術を向上させる一番の近道だと私は思う。